

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 5 月 31 日

事業所名 浦添市児童発達支援センターたんぼぼ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	10	・当日の出席人数によって部屋割りを考える等の調整をしている。 ・部屋数が少ないため保育内容等を職員間で話し合い、部屋(教室)調整を行っている。 ・親子通園のため大人の人数も多く、日によっては部屋のスペースが狭く適切ではない時もあるが、活動内容によって部屋の利用方法を毎回職員で話し合っており工夫している。 ・子どもの特性や人数に合わせて空間を分けている。	・今後も登園人数や活動内容によって部屋割りを工夫しながら行っていく。
	2	職員の配置数は適切である	12	6		・基準人員は満たしているが、増員できるのであれば増員してより丁寧な支援を提供したい。 ・登園人数やお子さんのタイプによって職員の配置を工夫し支援を行っていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	15	3		・クラス全体の活動に合わせた情報伝達の工夫と、子ども1人1人の特性に合わせた工夫を組み合わせ環境設定を考えていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	17	1	・掃除を丁寧にしている。	・使用したものは責任を持って片づけ、整理整頓を心がけてきれいな教室を維持したい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	17	1		・保護者の意見をキャッチした際には全員で共有し、改善策を話し合っておりそれを保護者にできるだけスピーディーに返していけるようにしている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	16	2	・保護者から意見があれば、すぐに職員間で共有するようにしている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	15	1 無回答 1		・わからない。⇒評価表の集計結果を事業所内に貼りだすとともに社協のホームページでも公開していることを職員間でしっかり共有していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13	4 無回答 1		・第3者評価は受けていない。⇒今後、受ける予定。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	18		・積極的に行っている。	
適切	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	17	1		・できるだけ全職員でモニタリング会議を実施し、子どものその時々の発達状況や課題を確認し、個別支援計画の内容もしっかり職員間で共有していく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	16	2		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	18			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	18			
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	18				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
別な支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	17	1		・登園回数が少ない子に対してプログラムが偏らないように工夫する。遊びを繰り返すことは悪い事ではないので、その目的をしっかりと伝えていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	17	1		・プログラム自体は集団活動だが、その中で個々に合わせた対応をしていることを職員間で共有、共通認識する。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	18		・リーダーにタイムスケジュールを確認し、保育中、時間を意識するようになっている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	18			・午前、午後ともクラスがある時は振り返りを行う時間が短くなってしまふ所は気になる。⇒保育後の時間の使い方(掃除、振り返り、日誌記入等)を工夫し、効率的にできる様に考えていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	18			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	18			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	18		・担任や児発管が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係機関と連携した支援を行っている	17	1		・会議に参加していることは報告しているが、会議内容まで伝達していないこともあるので、しっかりと伝達する。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもや等)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	15	1 無回答2		・医療的ケア児が在籍しているので、関係機関との調整会議等の内容を職員間で共有する。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	15	1 無回答2	・保護者と通じて情報共有や連携を図っている。 ・カンファレンス会議等に参加して確認を取っている。(親子通園のため保護者同意の元)	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16	2		・わからない。⇒実際、移行支援の会議については保護者や移行先から要望があれば行っている。会議について職員間で共有する。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16	2		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	18			・自分自身の課題として、今後他施設のことを勉強する必要があると感じている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	13	5	・地域の児童センターの行事に参加した。 ・家庭保育のお子さんに限ってはいないが、地域のこども園の交流保育に参加した。	・わからない。⇒家庭保育の児童に限るが交流保育等を行った。交流したことを職員間でしっかりと共有していく。 ・コロナや利用人数増、併用組も多くできていない。⇒感染症の状況も見ながら地域の保育園等との交流保育や児童センターとの交流をしていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	16	2	・代表者が参加し、内容については伝達してもらっている。	・継続して会議内容を伝達してもらおう。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	18		・どの職員も保護者に丁寧に対応している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	12	・今後実施予定。 ・今年度はベアトレの支援プログラムはできなかった。 ・子どもの発達についての内容の保護者勉強会等を開催している。	・次年度から実施していく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	17	1		・契約時の伝達内容についても職員間で共有していく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	18			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	17	1	・普段の保育の中で振り返りや保護者と話し合う機会があるため、相談しやすい環境づくりや必要に応じてカウンセリング相談(心理面談)も実施している。	・個別面談や心理面談等の内容を職員間で共有していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	18		・保護者研修や情報提供の機会は十分ある。	・交流を目的とする会は今後行いたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	17	1		・できるだけスピーディーに保護者の相談に対応できるように職員間で連携していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	18			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	18			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	18			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17	1	・まつり(行事)などで地域(自治体、子ども園等)と連携を図っている。	・まつりを通して地域住民にたんぼぼを周知していくことを継続していく。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	18		
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	18			
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	18			
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	5	・指示書は求めているが、保護者からアレルギーの状況や対応について事前にまたは食事提供時に確認している。 ・おやつや給食を準備する際に確認できるように、アレルギー確認票を掲示している。	・医師の指示書があるか分からないという意見があったので、アレルギーの確認方法を職員間で共有する。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	18			
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	18		・講師(CAP)を呼んで研修を行っている。	
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	16	2	・身体拘束は行わず、別の方法を行っている。(例:「大好ききゅ～」と言いながら抱っこする等)	・保護者とも対応方法を相談し、必要な場合は個別支援計画に記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。